

平和への想い

光英VERITAS中学校 2年

1945年8月9日11時2分。長崎の上空で炸裂した1発の^{げんしばくだん}原子爆弾は、当時の人々の日常、幸せ、未来を一瞬^{いっしん}にして奪^{うば}い去^さりました。原爆「ファットマン」の熱風^{ねっぷう}と爆風^{ばくふう}は、人々や家などの建物も吹き飛ばし、長崎の美しい景色を壊していきました。目に見えない放射線を浴びた人々は、戦争が終わった後も後遺症に苦しみました。その傷跡は、80年経った今もなお癒^いえることはありません。

原子爆弾という兵器は、恐ろしいという言葉だけでは足りないほど残忍^{ざんじん}で残酷^{ざんこく}なものです。全てを一瞬^{いっしん}で奪^{うば}い、壊^{こわ}してしまいます。それなのに、世界には今もなお12000発以上の核兵器が残っています。核保有国も含め、今も世界のあちこちで戦争が行われています。また新たにどこかの国が被爆地^{ひばくち}になっ、てしまいかもしれない、そんな恐ろしい未来が想像

できてしまう現状では、真の平和というものは訪れないのではないでしょう。

長崎を訪れた4日間、私たちは^{せいしょうねん}青少年ピース^{しやましようが}フォーラムへの参加、平和公園や城山^{こう}小学校を訪れたり、平和式典へ参列したり、さまざまな貴重な経験をさせていただき、平和について学ぶことができました。青少年ピースフォーラムでは、^{ひばくしゃ}被爆者の^{みせ}三瀬^{せいちろう}清一郎さん^{ひさん}から直接^{うかが}お話を伺うことができ、当時の悲惨さや苦しみを感しました。原爆を落とされた8月9日は夏休み、家族と共に過ごしている人が多い中での出来事でした。

今、私たちが夏休み明け友達と話すことといえば、「夏休み何をしたの?」「宿題終わった?」など、そんなたわいのない平和なものだと思います。でも、この時代は違います。「よう生きとった。よかったなあ。」そう言って、生きていることに感謝をしたのだそうです。同じ教室にいた仲間がいなくなってしまうことが^{きやうじや}当たり前^はの世界でした。救助場^{きやうじや}にな

っていた学校には、たくさんの人が運ばれて
きました。救護^{きゅうご}が間に合わず、次々亡くなっ
てしまった人が校庭で焼かれる様を嫌^{いや}という
ほど見せられました。「水を、水を」と叫^{さけ}び、
苦しみのあまり「殺してくれ。」と叫^{さけ}ぶ人々の
姿を見ることしかできず、これが地獄^{じごく}なのか、
と思ったそうです。戦争が終わり、平和にな
ったと思われた後も被爆者^{ひばくしゃ}の方々の戦いは終
わっていませんでした。根拠^{こんきょ}のない偏見^{へんけん}や差
別、経済的な生活の苦しさ、怪我^{けが}の後遺症^{こういしょう}、
そして放射線^{きょうしん}の恐怖。「被爆者の子供は異常
な子が生まれる。」そんな本当かどうかも分か
らない噂^{うわさ}が広がり、被爆者ということを隠^{かく}し
て、就職や結婚をする人も少なくなかったよ
うです。

実は、私の祖母の兄姉^{けいし}は、長崎で被爆を経
験しています。被爆二世をつくらないように
と結婚^{ひか}を控えたり、若くして亡くなったりと、
深い苦しみを背負っていたそうです。今まで
私はこの話を知りませんでした。戦争を経験

した人の中には、その頃のことを思い出すのも辛く、語りたくないと思う方もいらっしゃるようですが、私の祖母もその1人だったようで、今まで戦争の話を聞いたことがなかったのです。今回の長崎派遣をきっかけに、出発前に当時の話を少し聞くことができました。この長崎派遣がなかったら、一生聞けなかった話かもしれないと思うと、より一層ありがたい経験となりました。

原爆が残した傷跡、被爆者の方からのお話、いろいろなことを見て、聴いて、感じて、苦しみを抱えた方が数えきれないほどいらっしゃることを知り、命の尊さ、平和の大切さを改めて強く感じています。やはり、核兵器は世界から無くさなくてはいけない、これ以上苦しむ人を出してはいけないと、改めて考えさせられました。核兵器を無くすというのはとても難しく、簡単なことではないかもしれませんが、それでも諦めず^{あきら}に、この想いや原爆の恐ろしさ、平和の大切さを私たちが少し

ずつでも世界へと発信していけば、何か変わるかもしれません。被爆者のいない時代が訪れようとしている今だからこそ、彼らから聞いたこと、彼らの想いを受け継いで次の世代へと私たちが伝えていくこと、これが大切なのではないかと、今回の長崎派遣で感じました。私たちは、被爆者の方から直接お話を聴ける最後の世代だといわれています。それがどんなに貴重で大切なことなのか改めて感じるとともに、直接伺ったお話を伝え続けていくことが私たちの使命だと思っています。

美しい長崎の街を一瞬にして焼け野原に変えてしまった憎^{にく}き原子爆弾、それでも80年経った現在の長崎は大変美しく、自然^{しぜん}溢れた力強い景色が広がっています。私たちの手は、平和を壊すためではなく、平和な世界を作り、守るためにあります。「長崎を最後の被爆地に」という想いを胸に、平和への想いを伝え続けるとともに、平和のためにできることを模^も索し続けたいです。